

合理性の罠と説明責任

NPOに降り注ぐさまざまな声。ともすれば、本来のミッションからはずれ、安全でもっともらしく見えるほうに曲りそうになることも。そこに潜む罠とは？

「説明責任を重視しすぎると成功する確率が下がる」

加護野教授(神戸大学、※1)によれば、「合理的であろうとすることが合理的な結果につながらないことを合理性の罠」といいます。すなわち限られた知識をもとに将来に関わる選択を行うため、事前段階で合理的であると判断した事柄が結果的に思惑が外れて失敗することがあると。

その一方で、事前段階では合理的でない判断した事柄をあえて実行した結果、偶然にも成功して、大きな利益を得るということもあります。ところが、説明責任をあまりに重視しすぎると、事前段階で合理的であると判断した事柄しか実行を許されません。そ

Mr. Dee
(ミスターディー)

職業柄、NPOの経営や会計に詳しくなりました。曲ったことは許さない！他人にも自分にも厳しい、かなりの勉強家。今回の連載では、「外の目」でNPOを検証します。

のため、そういう領域には自ずと競争相手が多く集まり、成功を手にする確率が下がるといいます。これが「罠(パラドックス)」の所以であると。

「説明しやすさを狙った事業の落とし穴」

NPO法人北播磨市民活動支援センターはエクラの指定管理者としての管理運営業務を念頭に

活動をしており、第1期協定期間の5年満了を間もなく迎えることとなります。第2期へ向けての過程では当初の5年間の活動を総括する形で説明責任を果たすことが求められるのですが、センターの使命「市民活動の中間支援」はちょうどやそつとでは説明責任など果たせないくらい、壮大なテーマです。その奥行き・広がり・可能性はあまりに広大で、このため、丁寧にじっくり観察しないとその良さがわかりにくいのです。

骨太なテーマ vs 競合他社



従って説明しやすさを狙って事前に合理的に考え得る射程(つまり貧弱なテーマ)の事業ばかりを並べて「こういう事業をすることという効果が出ます」などと、第2期の進み方を示すのは表面的には受けがよくても、支援センターのあり方としてはむしろマイナスとなるように感じます。

「事前合理性が無くてもあえて選ぶ必要性」

競合他社はきつと射程の短いテーマばかりを60点狙いで書き立てるでしょうが、相手にしないことです。競合他社は射程の長いテーマを選んでこないのです。逆に成功を独り占めできるという意味で、事前合理性が無くても敢えて選ぶということが必要となるような気がしています。NPOも経営であるとすると、セコイ成果ではなく、大成功する「経営の醍醐味」を味わおうではありませんか。

※1の出版はプレジデント社、ビジネススクール流知的武装講座「2004年7月発行」

From outside From outside From outside From outside From outside

みんなで作るリレーエッセイ Essay

「ご存知ですか？ドナー登録」

今回の執筆者は NPO法人関西骨髄バンク推進協会 理事 大畑 江美さん

私は、骨髄バンクのドナー登録についての説明を行うボランティア活動をしています。骨髄バンクについてはご存知の方も多いと思いますが、ドナー登録の内容や方法についてはあまり知られていないのが現状です。また、登録したいと思っても、どこでできるのか、どうすればできるのかがわからず、そのままになるケースもたくさんあるようです。

登録は、白血球の型を調べるために2ccの血液を採取するだけで完了します。これまでは、血液センターや登録会場などにわざわざ出向いていただかなければなりませんでした。最近は献血と同時に登録ができる『献血並行型ドナー登録』というシステムが取られていることがあります。献血前に比重や貧

血の有無を調べるための採血を行います。その時に、骨髄バンクの登録に必要な2cc分を同時に採取するという方法です。このシステムが取られるようになってから、ドナー登録は、より身近に感じていただけるようになったと思いますが、昨年末現在で有効ドナー登録者数は約42万人。年間2,000人とされている骨髄移植を希望する患者さんのうち、まだ6割程度しかドナーが見つからないというのが現状です。

一人でも多くの患者さんが骨髄移植という治療方法を選択できるよう、一人でも多くの方にドナー登録をしていただきたいと思います。活動しています。

協会のHP → <http://www.5c.biglobe.ne.jp/>

ムコちゃんのつぶやき

「非日常を楽しむコト」

(2008年12月24日のブログ「アルシエ日記」より)

職業柄？映画館では、チケット売りの対応や、案内の仕方、座席の座り心地やトイレの清潔さ、館内の温度、匂い、挙句の果てには、案内看板の文字や大きさや設置場所まで気になって、知らず知らずチェックしている自分に気がつき苦笑い。

そうなんです。

エクラのコンサートへお越しのみなさまへ、非日常を演出し、「時間を忘れる時間」を創出する事も私たちの大事な仕事のひとつです。いつもと違う素敵な時間(非日常)を過ごしていただくために、私たちがするべき事、心がける事。管理側の都合を押し付けず、お客さま目線で考えると自ずと答えは導かれます。

小野市うるおい交流館エクラ指定管理者として「市民が顧客のサービス業であることを自覚して、来館者の満足度向上に努めよう。」

職員と毎朝、唱和するスローガンです。

今いちど、職員と共にこのスローガンの真の意味を見つめ直し、新年を迎えたいと思います。エクラで非日常を楽しんでいたお客さまが、家庭や職場へリフレッシュして笑顔でお帰りにされるように...

非日常があるから、日常も楽しく過ごせる。逆に日常があるからこそ、非日常が楽しくなるんですよ。やっぱり、どちらも大事。

NPO法人北播磨市民活動支援センター(アルシエ)は、本日、5歳の誕生日を迎えました。

この地域にアルシエがあって良かったと感じていただけたら、設立目的を見失うことなく、みなさまと共に活動を続けて参りたいと存じます。

事務局長 向山 良子

